

# 保存会だより

2006.3.24  
黒森歌舞  
伎保存会

○事務局○  
酒田市文化課  
Tel0234-26-5777

## 来年の演目は 「尼子十勇士二度目誉」に決定

三月十二日、来年の演目を決める行事「太夫振舞」が日枝神社で行われ、「尼子十勇士二度目誉（あまこじゅうゆうしにどめのほまれ）」に決まりました。昭和十四年以来、六十七年振りの上演になります。

今年（今年）の選者となったのは、役者の星川靖さん（三十三歳）。時折粉雪が舞う寒い中、神社境内の井戸で七杯半の水をかぶって身を清めてから、神社内で「神饌（しんせん）の儀」といわれる、演目候補を書いた



なかなか引き上げることができなくて、やっと一つを上げました。

三つのこよりから一つを引き上げる儀式を行い、来年の演目が決まりました。この演目は、中央でもほとんど上演されることがないといわれる演目です。どのような舞台を見せてくれるか、大変楽しみなところです。この「太夫振舞」から、黒森歌舞伎の一年の行事がスタートします。

## 佐藤進一氏が 新座長へ就任

三月十二日に、黒森歌舞伎妻堂連中の総会が開催され、五十嵐智座長に代わって佐藤進一氏が新座長に選出されました。

五十嵐座長は平成七年に副座長、平成十年に座長へ就任。少年歌舞伎の創設、「黒森歌舞伎調査事業・記録作成事業」、「国民文化祭・地芝居の祭典」など大事業について中心的に運営を支えてこられました。

また座員や地域の信頼も厚く、まとめ役として黒森歌舞伎の伝承・発展に大きな貢献をされてきました。長い間、本当にお疲れさまでした。

佐藤進一新座長は、十八歳で座員になって以来、三十年以上も役者を務め、平成十年からは会計として座を支えてこられました。

「黒森歌舞伎の伝統を次の世代に引き継いでいくのが自分の役目。座員の年代層は幅広くなっているが、座員の意見を聴きながら座をまとめていきたい」と抱負を語ってくださいました。

## 正月公演・ 酒田公演開催！

今年の黒森歌舞伎正月公演（二月十五日・十七日）と酒田公演（三月五日）が、盛大に開催されました。

十五日は好天に恵まれ、神社境内は場所取りに苦労するほど大勢の観客で賑わいました。一転して、十七日は大荒れで、数年振りに「雪中歌舞伎」を楽しむことができました。集まった

カメラマンたちは、時折雪が舞うと、盛んにシャッターを切っていました。

市民会館「希望ホール」で開催した酒田公演にも大勢の観客が集まりました。お客さんの反応もよく、役者も気持ちよく演じることができました。

ロビーでは恒例の歌舞伎のひょうたんや野菜・花などの販売が行われ、こちらも大盛況でした。

黒森歌舞伎がお世話になつて、勘亭流の池田永壽さん（神奈川県川崎市）から特別寄稿をいただきました。

## 黒森歌舞伎の魅力

歌舞伎文字 勘亭流

池田

永壽えいじゆ

黒森歌舞伎とは、私達の師・伏木壽亭が担当しておりました配役表書きの仕事を、四年ほど前に門下生数名で引継いでからの縁になります。この様な場で魅力を語るのは甚だおこがましいのですが、屋外での観劇形式、時代物を主とした黒森独自の台本・演出、地元の観客によるアットホームな雰囲気など、数え上げたら切りがありません。しかし一番の魅力は、俳優さんから裏方さんまで全て地元の人が行い、先人から受け継いだものを妻堂連中という組織として守り伝え、商業的な都市の大歌舞伎とはまた違った味わい深さがあることでしょうか。仕事や、家庭など様々な事情がある中、本業ではないのにこれだけのものを作り上げていくというのは本当にすごいことだと。やはり二百七十年の間に脈々と伝わってきた芝居好きの血が流れているからなのでしょう。

先の奉納公演では、米寿を迎えられるという地元の方と同じ台になり、昔のお話を伺いながら観ていたのですが、娯楽の少なかった時代、みんな数里歩いて観に来たことや、持ち寄りのお弁当は同じになるよう、厚揚げやごぼうや青昆布を使った煮物・紫蘇おにぎり・



「国民文化祭やまがた2003」での実演時の写真です。向かって右から、川田真壽、田中志壽、桂田久壽、池田永壽です（黒森公民館）。

きなこ餅と決まっていたこと、掛小屋の時は二日間舞台が組立てられたこと、武者が龍を退治している幕は昔から変わっていないことなど、観劇歴の浅い私にはどれも興味深いことばかりでした。そして同じ台にいる人同士で自然と話の輪ができて交流の場になることや、観劇慣れしている観客による独特の掛け声がまたいいなあと。

この公演では、世代交代から俳優の方達の平均年齢は二十九・五歳だったようですが、黒森小学校も少子化で全校生徒数は七十五人とのことなので、九年前から始まったという少年歌舞

伎の出演者の中から将来一人でも多く、大人の部の舞台に再び立つ姿を見ることができたら・・・と願わずにはいられません。

また、有名な酒田や鶴岡などのお雛さまの展示時期が奉納公演と重なっていないので、一緒に楽しめないのは残念ですが、庄内の文化をたくさんの方に知っていただけたらと思います。

## 祝 土門拳文化賞奨励賞 松本さんが「黒森歌舞伎」で受賞！

保存会会員でもある松本鶴子さんの写真作品「黒森歌舞伎の記録」が、「第十二回酒田市土門拳文化賞」の奨励賞を受賞しました。この賞は、酒田市出身の世界的な写真家、土門拳を記念したもので、アマチュア写真家の登竜門として全国のカメラマンが目標としている賞です。

松本さんは、黒森歌舞伎に魅せられ十八年も渡ってカメラ片手に黒森へ通い続けました。昨年には、写真集「黒森歌舞伎の記録」も出版しています。今回の受賞作品は、土門拳記念館（〓四月十六日）や東京都の新宿ニコンサロン（五月十六日〓二十九日）で展示されます。